

『グロイザー-X』（グロイザーエックス）は、桜多吾作原作によるナック制作のロボットアニメ。1976年（昭和51年）7月1日から1977年（昭和52年）3月31日まで、毎週木曜日 19:30 - 20:00の時間帯に於いて東京12チャンネル（現：テレビ東京）にて全39話が放送された。

【概要】

第1話のサブタイトルから「大空の王者 グロイザー-X」や「空爆ロボ グロイザー-X」とも呼ばれるが、公式には単に「グロイザー-X」である。東京12チャンネル初のロボットアニメで、ナックでは『アストロガンガー』（日本テレビ系）に次ぐ巨大ロボット作品。2004年にDVDソフトが発売されている。

【ストーリー】

事故によって、地球に不時着したガイラー星の探検隊はゲルドン帝王の支配の下に「ガイラー帝国」を名乗り、地球侵略に乗り出す。ゲルドン帝王に対抗する平和主義の科学者 ヤン博士はロボットに変形できる爆撃機「グロイザー-X」を娘のリタに託して、日本へ脱出させた。リタは飛島パイロットチームの海阪譲と知り合い、彼とともにグロイザー-Xを駆って、ガイラー帝国の空爆ロボと戦う。

【グロイザー-Xとグロイザーロボ】

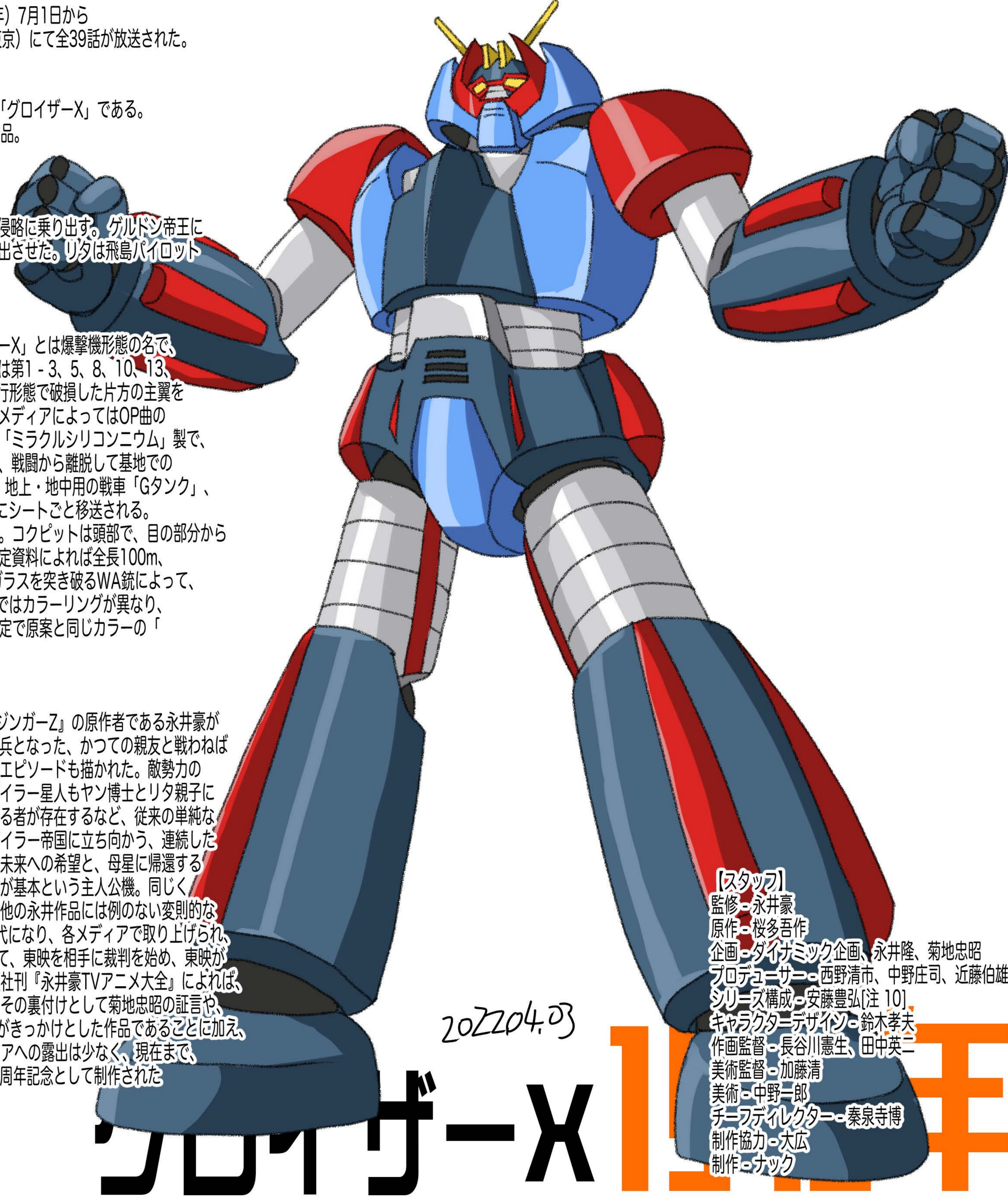
この作品の特徴として、人型ではなく飛行形態が基本であることがあげられる。タイトルにもなっている「グロイザー-X」とは爆撃機形態の名で、「ファイト・アップ!」の掛け声とともに人型である「グロイザーロボ」へ変形する。本編でロボ形態に変形したのは第1 - 3、5、8、10、13、22、32、34 - 36話の12回と少なく、OPでは全く登場せず、EDで、ラストに登場するのみである。第17話では飛行形態で破損した片方の主翼をロボの腕に換装して代替主翼とする荒業を敢行した。飛行形態へ戻る際は「リターン・エックス!」とコールする。メディアによってはOP曲の歌詞から「超爆ロボ」、敵と同じく「空爆ロボ」とも呼ばれる。タキオンエネルギーを動力源とし、機体は特殊合金「ミラクルシリコンニウム」製で、小規模の破損に対しては戦闘中でも自己修復が可能（機体形状の一応の再生はできるものあくまで緊急措置であり、戦闘から離脱して基地での本格修繕が急務となる）。また、自動消火装置も搭載している。メカ内部には空中用の戦闘機「Gジェット」[注 4]、地上・地中用の戦車「Gタンク」、海底用の潜水艇「Gシャーク」の小型メカ 3機を収容しているが、搭乗はグロイザーのコックピットから直接、各メカにシートごと移送される。飛行形態は装備が前面に集中しているため、それ以外の部分を攻撃された場合はほぼ対応できないことが弱点である。コックピットは頭部で、目の部分から直接外を見る有視界型。右目部分に譲、左目部分にリタがそれぞれ搭乗する。劇中では明らかにされていないが、設定資料によれば全長100m、総重量1200tと当時のロボットアニメとして見ても、かなり巨大な部類であるが、機動性は高い。第23話では風防ガラスを突き破るWA銃によって、一度は敗北するが、第24話では3倍に強化した防弾ガラスを風防に取り付け、WA銃を無力化させた。原案とアニメではカラーリングが異なり、やまとから発売された「群雄」の鋼シリーズ 第1弾として発売された際にはアニメに準拠した「通常版」と、数量限定で原案と同じカラーの「原作版」が用意された。

【製作・作風】

原作は『冒険王』（秋田書店）で、コミカライズ版の『マジンガーZ』を手がけた桜多吾作。オープニングでは『マジンガーZ』の原作者である永井豪が監修として、クレジットされている。内容は全体的にハードなストーリーが展開され、ガイラー帝国の侵略部隊の尖兵となった、かつての親友と戦わねばならなくなったヒロイン・リタの悲哀や、主人公の仲間やその関わり深い人々が戦いの中で命を落とすなど、悲惨なエピソードも描かれた。敵勢力のガイラー帝国は元来、異星の宇宙調査団だったが、タカ派勢力のクーデターにより侵略部隊と化したものであり、ガイラー星人もヤン博士とリタ親子に代表される平和主義者や、帝国の隊長にも意に反して、ゲルドン帝王の下で地球侵略のため戦うことを強要されている者が存在するなど、従来の単純な悪の権化としての敵組織とは一線を画す描写がなされている。終盤は地球人とガイラー星人の平和主義者たちが、ガイラー帝国に立ち向かう、連続したストーリーが展開された。最終回では戦いが終わった後の後日談に多くの時間が割かれており、地球とガイラー星の未来への希望と、母星に帰還するリタと譲の別れが描かれ、物語が締めくくられた。戦闘シーンにおいては人型に変形することはできるが、飛行形態が基本という主人公機。同じく飛行形態が基本の敵ロボット。人型に変形しての格闘戦はあまりなく、大半が空中戦で決着がつく戦闘シーンなど、他の永井作品には例のない変則的な要素が盛り込まれた。1980年代までは『全怪獣怪人大百科』（ケイブンシャ）に掲載される程度だったが、990年代になり、各メディアで取り上げられ、その重厚な内容が知られるようになった。ナック社長の西野聖市によれば、永井豪が当時『マジンガーZ』をめぐる、東映を相手に裁判を始め、東映が「一切、永井豪の作品をやらない」という姿勢を見せたため、ナックに持ちこまれた企画だったという。一方、双葉社刊『永井豪TVアニメ大全』によれば、発端はナックの独自企画だったものに、ナック側が企画の総纏めをダイナミック側に持ち掛けたものとされており、その裏付けとして菊地忠昭の証言や、ダイナミックプロの名が企画書に登場したのが第2稿以後である点が示されている。前述の通り、東映とのトラブルがきっかけとした作品であることに加え、マジンガーシリーズやゲッターロボシリーズなどの永井豪の作品とは完全に独立したストーリーであるためにメディアへの露出は少なく、現在まで、リメイクやスーパーロボット大戦シリーズなどへの登場例はない。例外的に、2000年にダイナミック企画の創立25周年記念として制作された『ダイナミック スーパーロボット総進撃』にゲスト出演している。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

<https://majingai.x.fc2.com>



【スタッフ】
監修-永井豪
原作-桜多吾作
企画-ダイナミック企画、永井隆、菊地忠昭
プロデューサー-西野清市、中野庄司、近藤伯雄
シリーズ構成-安藤豊弘[注 10]
キャラクターデザイン-鈴木孝夫
作画監督-長谷川憲生、田中英二
美術監督-加藤清
美術-中野一郎
チーフディレクター-秦泉寺博
制作協力-大広
制作-ナック

グロイザー-X

グロイザーX 1976年



話数	サブタイトル
第1話	大空の王者 グロイザーX
第2話	宇宙人美少女の秘密
第3話	恐怖の気象兵器
第4話	熱血！ヒコーキ野郎の涙が燃える
第5話	悲しみは大空の彼方に
第6話	悲劇のマッハ3.5 大作戦
第7話	リタの心を取り戻せ
第8話	消えた空爆ロボ
第9話	傷だらけの友情
第10話	この命果てるとも
第11話	人間ロボット大作戦
第12話	女神像を破壊せよ！
第13話	恐怖の大飛行船
第14話	皆殺しの巡視船
第15話	悲劇の空爆ロボ・ビッキー
第16話	日本全土を攻撃せよ
第17話	謎の飛行物体
第18話	果てしなき 大空の戦い
第19話	ゲンの命を救え
第20話	さらば宇宙の友よ
第21話	秘密基地大爆破
第22話	奪われたグロイザーX
第23話	ジョーとリタの命を狙え！
第24話	マシーンW.A銃を防げ
第25話	恐怖の巨大戦車
第26話	嵐を呼ぶ大空中戦
第27話	大空に怒りをぶつけた涙の一撃
第28話	恐怖！空飛ぶ鯨
第29話	生きていたヤン博士
第30話	死をよぶ電撃作戦
第31話	冷たく白い東京
第32話	秘密前進基地をさぐれ
第33話	茜基地に突入せよ！
第34話	リタよ！ジョーを撃て！
第35話	総攻撃 ガイラー帝国
第36話	大空に平和の鐘が鳴る

【飛島パイロットチーム】

飛島パイロットチーム（以降「TPC」と表記）は東京湾の孤島「茜島」（あかねじま）に基地を置く、飛島秀樹博士をオーナーとした民間航空会社である。リタとグロイザーXの亡命により、吉田局長率いる国防軍国家保安局の管理下に置かれることとなり、地球を守る砦となった。

【海阪 譲（かいさか じょう）】声 - 古谷徹

TPCのエースパイロット。通称「ジョー」。飛行機の中で生まれるも、やがて両親を亡くし、飛島博士に引き取られる。学生時代は一番の不良だったが、飛行機との出会いが彼を変える。リタと出会ってからはグロイザーXのパイロットとして、ガイラー帝国との戦いに身を投じることになる。熱血漢でやや無鉄砲なところもあるが、気は優しく、子供には好かれており、持ち前の正義感の強さでガイラー帝国と空爆ロボに挑んでいった。戦いを通じてリタと心を通わせていくが、異星人同士での寿命の違いなどで共に生きることができず、戦いが終わった後に寄贈されたグロイザーXから、もはや二度と会うことはない彼女を見送ったところで物語は終結する。

【リタ】声 - 野崎貴美子

ガイラー星人。ゲルドン帝王の地球侵略に反対する父のヤン博士からグロイザーXを託され、負傷しながらも帝国を脱出。茜島に不時着し、TPCに助けられる。以後はグロイザーXとともにTPCに身を預け、グロイザーXのサブパイロットとなり、同胞との対決という過酷な運命に立ち向かっていく。か細い外見のわりに芯は強く、ゲルドン帝王を始めとするガイラー帝国に裏切者と罵られても、自分の信念を曲げない強い心の持ち主。しかし、ケントやビッキーといった、かつての仲間と交戦し、戦死した際には悲しみを素直に表していた。最終話でゲルドンを倒した後、父や同胞たちと再会し、さらに母星からの迎えが来る喜びに浸るのも束の間、パートナーである譲とは同じ世界の中で生きることができない悲しみを抱くことになり、涙で譲に別れを告げる。

【飛島 秀樹（とびしま ひでき）】声 - 勝田久

TPCのオーナーで、科学者。宇宙工学の世界的権威である。11月25日生まれ。通称「先生」。譲とリタの司令官を務める。譲の育ての親でもあり、不良行為に走った譲に飛行機乗りへの道を示し、更生させた。自身も筋金入りのパイロットであり、操縦士としての魂に誇りを持っている。厳しい目で周囲を管理しつつも、仲間たちの不安や不満、気持ちを理解して受け容れる包容力も兼ね備えた人物。

【ガイラー帝国】

300年前に地球の北極に不時着した、ガイラー星人の軍部によって設立された暗黒組織。北極海の海底に秘密基地を構え、地球を征服して移住することを目論み、産業が発達し、島国であるために占領後の防衛も容易な日本を侵略の橋頭保とすべく、激しい攻撃を行う。さらに、日本に亡命したリタの抹殺や、グロイザーXの強奪、破壊も目的の一つとなっている。ガイラー星人は地球人と比較して、病原菌を寄せ付けない強靱な免疫機構を持ち、老化の進行も遅く、数倍の寿命を持つなどの特長があり、視力、聴力などの感覚器官も地球人より優れている。

【ゲルドン帝王】声 - 藪内英喜

ガイラー帝国の首領。元はガイラー星軍部のリーダーで、ガイラー星宇宙探査団ではキャプテン・ミハルトスの副官を務めていたが、ガイラー星人の実権を握ろうと画策。地球人の核実験によって、300年の眠りから醒めるとミハルトスを暗殺して、実権を握り「母星に帰ることはできない」とのプロパガンダをしいて、日本占領・地球征服を決意した。徹底した軍人主義で、平和主義者を毛嫌いし、リタ、譲、ヤン博士、グロイザーXに激しい憎しみを抱いている。その一方で、ヤン博士に彼の最大の発明品である、タキオンエンジンを作らせ、帝国の空爆ロボを強化しようと企んでいる。普段は玉座から指令を出し、北極基地から出ることはほとんどなかった。最終回で、ゴーレンとともに最後の空爆ロボガイラーVに自ら搭乗し、グロイザーXを窮地に追い込むも、ヤン博士たちの起こしたクーデター鎮圧のため、帰還。それを追ってきた、グロイザーXにガイラーVの腹を破られて、ゴーレンとともに爆死した。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』